

## メキシコ自動車市場月次統計（2017年12月）

17年自動車生産は過去最高を更新も、18年は米国からの逆風とメキシコ大統領選で不透明感が増す厳しい年に。

主任研究員

深尾 三四郎

045-225-2375

fukao@yokohama-ri.co.jp

### 要約

- 12月メキシコ自動車生産（季調値）は大きく増加。輸出の増加が背景。国内販売は減少基調続く。
- 17暦年の国内生産台数は過去最高を更新。国内販売は8年ぶりの前年割れ。
- 18年は内外需の減退に加え、米国のNAFTA離脱リスクと税制改正、メキシコ大統領選が懸念材料に。

### メキシコでの事業環境は今後一層厳しくなる公算

メキシコ自動車工業会（Asociación Mexicana de la Industria Automotriz: AMIA）が発表した2017年12月の総生産台数は、前年同月比1.5%増と19か月連続で前年超えし、季節調整済年率換算値（当社試算、以下SAAR）は前月比12.2%増の407万台と単月ベースで過去最高の水準を記録した（図表1）。増産の主因は輸出の増加であり、国内販売は減少基調が続いている（後述）。ただ、輸出に関しても市場縮小が始まった米国向けの減少リスクが高まっており、先行きは楽観できない。

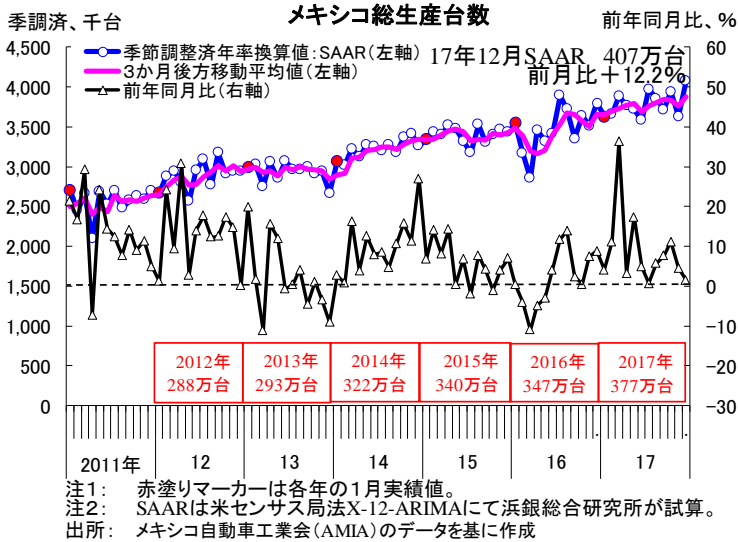
12月の総輸出台数は前年同月比16.7%増となり、輸出台数のSAARは前月比15.7%増の358万台と大きく増加した（図表2）。主要輸出先の米国ではハリケーン襲撃に伴う車両損害の代替需要が9月から発生していたが、同国の12月新車販売台数（SAAR）は前月比4.3%減の1,747万台（弊社試算）と3か月連続で減少し、特需が剥落し始めている（図表3）。販売奨励金が高水準で推移し、引き続き新車需要には強い脆弱性があることもあり、今後、米国新車販売の減速がメキシコ産輸出車両への逆風となろう。

国内新車販売は減少基調が続いている。12月の総販売台数は前年同月比17.6%減と7か月連続で前年割れし、SAARも前月比6.5%減の144万台と減少した。3か月後方移動平均値でみるトレンドは下降が続いている（図表4）。

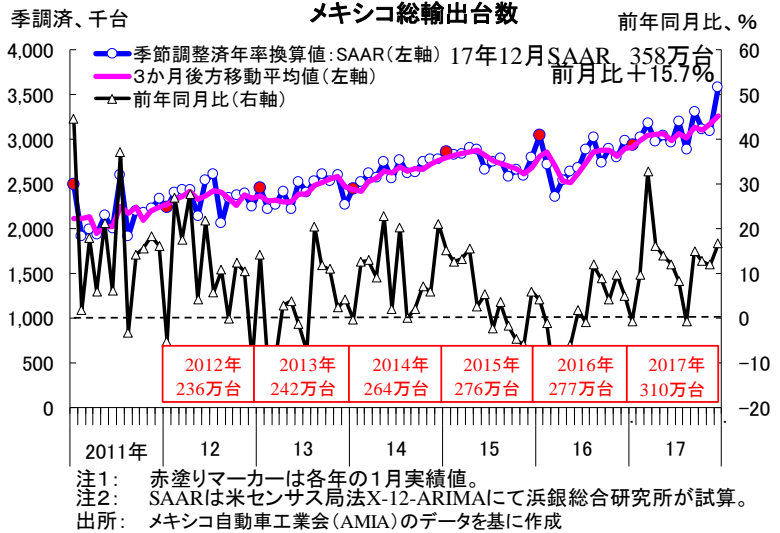
17暦年のメキシコ自動車市場は国内生産が前年比8.9%増の377万台と、8年連続で過去最高を更新し堅調に推移した。国内販売が同4.6%減の153万台と8年ぶりに前年割れしたものの、輸出台数が同12.1%増の310万台と大幅に増加したことが落ち込みを吸収した（図表8）。

18年のメキシコ自動車市場を取り巻く環境は、多くの懸念材料を抱える苦しいものとなろう。インフレの進行や米国からの中古車輸入増加に伴う国内販売の更なる減退に加えて、米国新車市場の縮小がメキシコ産車両の輸出の足かせとなり、また米国とメキシコの通商・政治イベントが大きな不安要素として重くのしかかるからだ。米国のNAFTA再交渉の長期化ないし脱退と法人減税を盛り込んだ税制改革の実施は、メキシコビジネスの投資妙味を大きく削ぐことに繋がる。本年7月のメキシコ大統領選において、現時点で優勢となっている野党が勝利し政権交代すると、現政権による財政・貿易政策や構造改革が大幅に変更される可能性が高く、同国経済の不確実性が一気に高まるリスクを孕んでいる。過去最高の生産台数を更新した昨年とは打って変わって、18年のメキシコ自動車市場は多くのリスク要因にさらされる神経質な展開が続くと予想する。

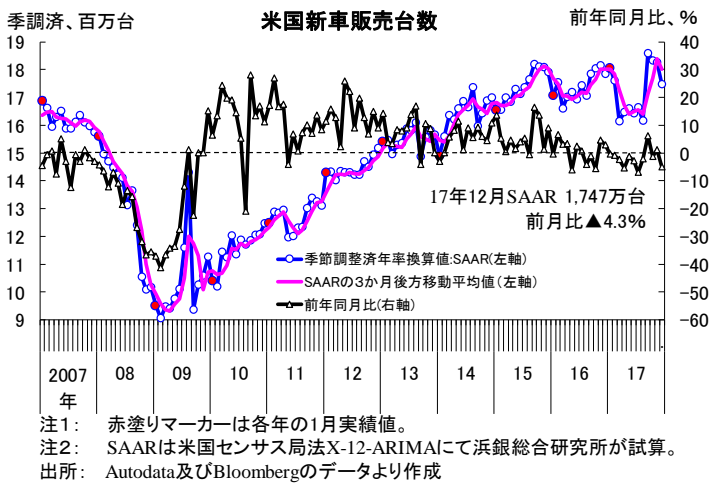
図表1 12月生産台数 (SAAR) は大きく増加



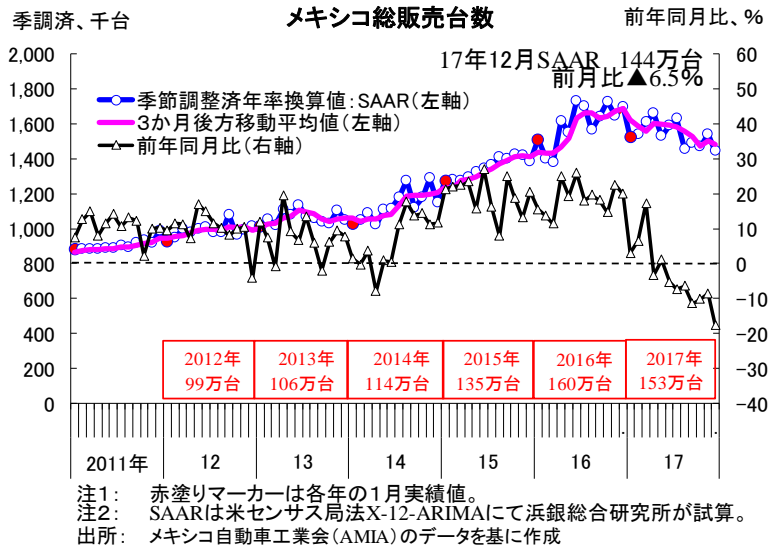
図表2 輸出台数 (SAAR) の増加が牽引



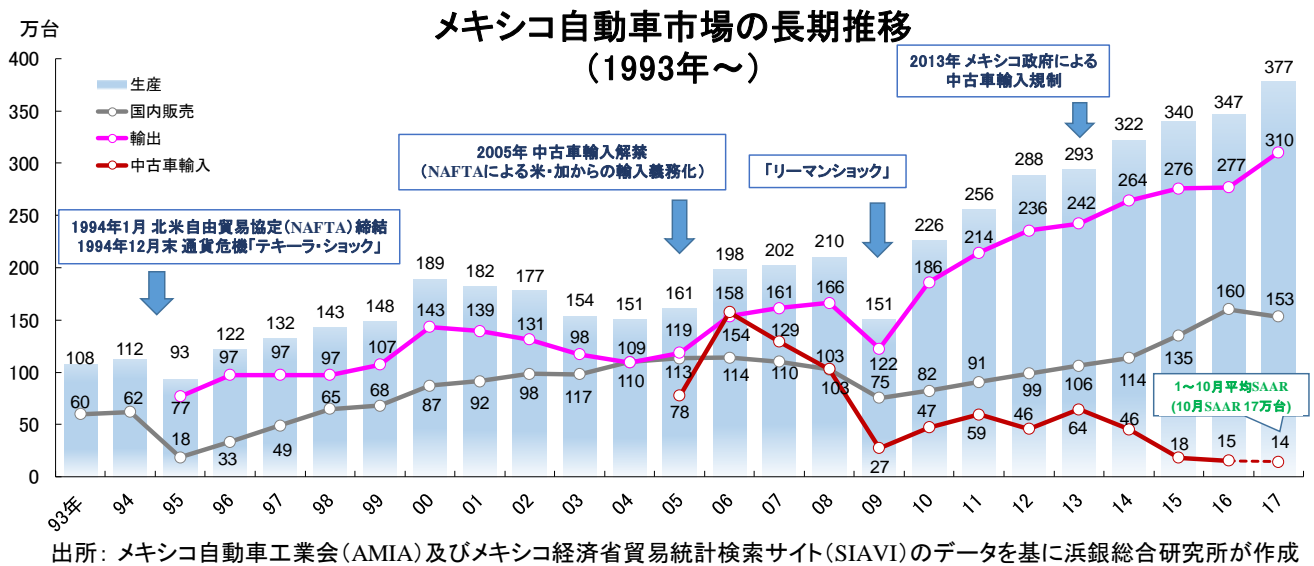
図表3 米国ではハリケーン特需が剥落し始めた



図表4 国内新車販売は減少トレンド続く



図表5 自動車生産台数は過去最高を更新するも、国内販売は8年ぶりの前年割れ



本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。